

【説明書】 高齢者等インフルエンザ予防接種

1 . インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸いこむことによって感染します。

典型的な症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴で、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することもあります。

2 . インフルエンザの予防

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。これは、世界的にも認められている最も有効な予防法です。

そのほか、人混みを避け、十分な栄養や休息をとることも大事です。感染の広がりには空気の乾燥が関連していますので、室内では加湿器などを使って加湿しましょう。外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いは、普通のかぜの予防と併せておすすめします。

3 . インフルエンザ予防接種の有効性

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておくことが望ましいです。

発病予防効果は34%～55%、死亡を防止する効果は8割程度です。

4 . インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。

非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

5 . 接種対象年齢

法律で決められたインフルエンザの予防接種の対象者は、65歳以上の方または60歳以上65歳未満であって心臓、腎臓または呼吸器の機能に日常生活が極度に制限される程度の障害がある方及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害がある方のいずれかです。しかし、**インフルエンザの予防接種は接種を受ける法律上の義務はなく、自らの意思で接種を希望し、インフルエンザの予防接種の実施に関する文書による同意をした場合に限り接種を行うものです。原則として、接種を希望しない方に予防接種をすることはありません。**

6 . 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、説明書をよく読んで必要性や副反応についてよく理解しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。疲れが残っている時や体調不良の時はその旨予診票に記入するなど接種を受ける方が責任をもって、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人
一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ インフルエンザ予防接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人
(「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。)
- ④ 前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ⑤ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

(3) 予防接種を受けるときには、主治医とよく相談のうえ、更に、接種担当医師とも相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ③ 今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人やそのような近親者がいる人
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息など呼吸器系の病気で治療を受けている人
- ⑤ 接種液の成分に対して、アレルギーを起こす可能性のある人

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は、いつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

ア. その他

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたりしたら医師(医療機関)の診療を受け、予防接種による副反応と思われる場合には下記にお問い合わせください。

問い合わせ先：村上市役所保健医療課健康支援室

村上 53-2111 (内線 2432)

各支所地域振興課地域福祉室 (直通TEL)

荒川 62-3104 神林 66-6113

朝日 72-6887 山北 77-3113